

表 3-3 人健康への内分泌攪乱作用による影響に関する哺乳類を用いた試験結果
(統括表)

(1) 平成 12 年度優先物質

物質名	試験結果
33.塩化トリブチルスズ	低用量(文献情報等により得られた人推定曝露量を考慮した比較的低濃度)での明らかな内分泌攪乱作用は認められなかった。なお、高用量(既報告で影響が認められた濃度)では、一般毒性与と考えられる影響が認められた。
34.塩化トリフェニルスズ	低用量(文献情報等により得られた人推定曝露量を考慮した比較的低濃度)での明らかな内分泌攪乱作用は認められなかった。なお、高用量(既報告で影響が認められた濃度)では、一般毒性与と考えられる影響が認められた。
36.4-ニルフェノール(分岐型)	低用量(文献情報等により得られた人推定曝露量を考慮した比較的低濃度)での明らかな内分泌攪乱作用は認められなかった。
36.4-t-オキシルフェノール	低用量(文献情報等により得られた人推定曝露量を考慮した比較的低濃度)での明らかな内分泌攪乱作用は認められなかった。
38.フタル酸ジ-2-エチルヘキシル	低用量(文献情報等により得られた人推定曝露量を考慮した比較的低濃度)での明らかな内分泌攪乱作用は認められなかった。なお、高用量(既報告で影響が認められた濃度)では、一般毒性与と考えられる影響が認められた。
39.フタル酸ブチルベンジル	低用量(文献情報等により得られた人推定曝露量を考慮した比較的低濃度)での明らかな内分泌攪乱作用は認められなかった。なお、高用量(既報告で影響が認められた濃度)では、一般毒性与と考えられる影響が認められた。
40.フタル酸ジ-n-ブチル	低用量(文献情報等により得られた人推定曝露量を考慮した比較的低濃度)での明らかな内分泌攪乱作用は認められなかった。なお、高用量(既報告で影響が認められた濃度)では、一般毒性与と考えられる影響が認められた。
41.フタル酸ジシロヘキシル	低用量(文献情報等により得られた人推定曝露量を考慮した比較的低濃度)での明らかな内分泌攪乱作用は認められなかった。なお、高用量(既報告で影響が認められた濃度)では、一般毒性与と考えられる影響が認められた。
42.フタル酸ジイソ	低用量(文献情報等により得られた人推定曝露量を考慮した比較的低濃度)での明らかな内分泌攪乱作用は認められなかった。なお、高用量(既報告で影響が認められた濃度)では、一般毒性与と考えられる影響が認められた。
45.アジピン酸ジ-2-エチルヘキシル	低用量(文献情報等により得られた人推定曝露量を考慮した比較的低濃度)での明らかな内分泌攪乱作用は認められなかった。なお、高用量(既報告で影響が認められた濃度)では、一般毒性与と考えられる影響が認められた。
46.ベンゾフェノン	低用量(文献情報等により得られた人推定曝露量を考慮した比較的低濃度)での明らかな内分泌攪乱作用は認められなかった。なお、高用量(既報告で影響が認められた濃度)では、一般毒性与と考えられる影響が認められた。
48.オクタジオキソリン	低用量(文献情報等により得られた人推定曝露量を考慮した比較的低濃度)での明らかな内分泌攪乱作用は認められなかった。なお、高用量(既報告で影響が認められた濃度)では、一般毒性与と考えられる影響が認められた。

(2) 平成13年度優先物質

物質名	試験結果
5.ベンゾクロフェノール	低用量(文献情報等により得られた人推定曝露量を考慮した比較的低濃度)での明らかな内分泌攪乱作用は認められなかった。なお、高用量(既報告で影響が認められた濃度)では、一般毒性与考えられる影響が認められた。
8.アミトロール	低用量(文献情報等により得られた人推定曝露量を考慮した比較的低濃度)での明らかな内分泌攪乱作用は認められなかった。なお、高用量(既報告で影響が認められた濃度)では、一般毒性与考えられる影響が認められた。
37.ピスフェノール A	低用量(文献情報等により得られた人推定曝露量を考慮した比較的低濃度)での明らかな内分泌攪乱作用は認められなかった。なお、高用量(既報告で影響が認められた濃度)では、一般毒性与考えられる影響が認められた。
44.2,4-ジクロフェノール	低用量(文献情報等により得られた人推定曝露量を考慮した比較的低濃度)での明らかな内分泌攪乱作用は認められなかった。なお、高用量(既報告で影響が認められた濃度)では、一般毒性与考えられる影響が認められた。
47.4-ニトロトルエン	低用量(文献情報等により得られた人推定曝露量を考慮した比較的低濃度)での明らかな内分泌攪乱作用は認められなかった。なお、高用量(既報告で影響が認められた濃度)では、一般毒性与考えられる影響が認められた。
63.フタル酸ジベンジル	低用量(文献情報等により得られた人推定曝露量を考慮した比較的低濃度)での明らかな内分泌攪乱作用は認められなかった。なお、高用量(既報告で影響が認められた濃度)では、一般毒性与考えられる影響が認められた。
64.フタル酸ジヘキシル	低用量(文献情報等により得られた人推定曝露量を考慮した比較的低濃度)での明らかな内分泌攪乱作用は認められなかった。なお、高用量(既報告で影響が認められた濃度)では、一般毒性与考えられる影響が認められた。
65.フタル酸ジプロピル	低用量(文献情報等により得られた人推定曝露量を考慮した比較的低濃度)での明らかな内分泌攪乱作用は認められなかった。なお、高用量(既報告で影響が認められた濃度)では、一般毒性与考えられる影響が認められた。

(3) 平成14年度優先物質

物質名	試験結果
4.ハキサクロヘンゼン	低用量(文献情報等により得られた人推定曝露量を考慮した比較的低濃度)での明らかな内分泌攪乱作用は認められなかった。なお、高用量(既報告で影響が認められた濃度)では、一般毒性与考えられる影響が認められた。
12. -ハキサクロシクロヘキサン	低用量(文献情報等により得られた人推定曝露量を考慮した比較的低濃度)での明らかな内分泌攪乱作用は認められなかった。なお、高用量(既報告で影響が認められた濃度)では、一般毒性与考えられる影響が認められた。
14.cis-7クロレン	低用量(文献情報等により得られた人推定曝露量を考慮した比較的低濃度)での明らかな内分泌攪乱作用は認められなかった。なお、高用量(既報告で影響が認められた濃度)では、一般毒性与考えられる影響が認められた。
16.trans-7クロレン	低用量(文献情報等により得られた人推定曝露量を考慮した比較的低濃度)での明らかな内分泌攪乱作用は認められなかった。なお、高用量(既報告で影響が認められた濃度)では、一般毒性与考えられる影響が認められた。
18.p,p'-D D T	低用量(文献情報等により得られた人推定曝露量を考慮した比較的低濃度)での明らかな内分泌攪乱作用は認められなかった。なお、高用量(既報告で影響が認められた濃度)では、一般毒性与考えられる影響が認められた。
18.o,p'-D D T	低用量(文献情報等により得られた人推定曝露量を考慮した比較的低濃度)での明らかな内分泌攪乱作用は認められなかった。なお、高用量(既報告で影響が認められた濃度)では、一般毒性与考えられる影響が認められた。
19.p,p'-D D E	低用量(文献情報等により得られた人推定曝露量を考慮した比較的低濃度)での明らかな内分泌攪乱作用は認められなかった。なお、高用量(既報告で影響が認められた濃度)では、一般毒性与考えられる影響が認められた。
19.p,p'-D D D	低用量(文献情報等により得られた人推定曝露量を考慮した比較的低濃度)での明らかな内分泌攪乱作用は認められなかった。なお、高用量(既報告で影響が認められた濃度)では、一般毒性与考えられる影響が認められた。

表 3-4 生態系への内分泌攪乱作用による影響に関する魚類を用いた試験結果
(統括表)

(1) 平成12年度優先物質

物質名	試験結果
33.塩化トリブチルス	明らかな内分泌攪乱作用は認められなかった。
34.塩化トリフェニルス	明らかな内分泌攪乱作用は認められなかった。
36.4-ニルフェノール(分岐型)	魚類の女性ホルモン受容体との結合性が強く、肝臓中ピテロジェニン(卵黄タンパク前駆体)濃度の上昇、精巣卵の出現、受精率の低下が認められ、魚類に対して内分泌攪乱作用を有することが強く推察された。
36.4-t-オキルフェノール	魚類の女性ホルモン受容体との結合性が強く、肝臓中ピテロジェニン(卵黄タンパク前駆体)濃度の上昇、精巣卵の出現、産卵数・受精率の低下が認められ、魚類に対して内分泌攪乱作用を有することが強く推察された。
38.フタル酸ジ-2-エチルキシル	頻度は低いものの、精巣卵の出現が確認されたが、受精率に悪影響を与えるとは考えられず、明らかな内分泌攪乱作用は認められなかった。
39.フタル酸ブチルベンジル	明らかな内分泌攪乱作用は認められなかった。
40.フタル酸ジ-n-ブチル	頻度は低いものの、精巣卵の出現が確認されたが、受精率に悪影響を与えるとは考えられず、明らかな内分泌攪乱作用は認められなかった。
41.フタル酸ジシクロヘキシル	頻度は低いものの、精巣卵の出現が確認されたが、受精率に悪影響を与えるとは考えられず、明らかな内分泌攪乱作用は認められなかった。
42.フタル酸ジエチル	明らかな内分泌攪乱作用は認められなかった。
45.アジピン酸ジ-2-エチルキシル	頻度は低いものの、精巣卵の出現が確認されたが、受精率に悪影響を与えるとは考えられず、明らかな内分泌攪乱作用は認められなかった。
46.ベンゾフェノン	頻度は低いものの、精巣卵の出現が確認されたが、受精率に悪影響を与えるとは考えられず、明らかな内分泌攪乱作用は認められなかった。
48.オクタクロスリン	明らかな内分泌攪乱作用は認められなかった。

(2) 平成 13 年度優先物質

物質名	試験結果
5.ペンタクロフェノール	明らかな内分泌攪乱作用は認められなかった。
8.アミトロール	明らかな内分泌攪乱作用は認められなかった。
37.ピスフェノール A	魚類の女性ホルモン受容体との結合性が弱いながらも認められ、肝臓中ビテロジェニン(卵黄タンパク前駆体)濃度の上昇、精巣卵の出現、孵化日数の高値(遅延)が認められ、魚類に対して内分泌攪乱作用を有することが推察された。
44.2,4-ジクロフェノール	明らかな内分泌攪乱作用は認められなかった。
47.4-ニトロトルエン	頻度は低いものの、精巣卵の出現が確認されたが、受精率に悪影響を与えるとは考えられず、明らかな内分泌攪乱作用は認められなかった。
63.フタル酸ジペンチル	明らかな内分泌攪乱作用は認められなかった。
64.フタル酸ジヘキシル	明らかな内分泌攪乱作用は認められなかった。
65.フタル酸ジプロピル	明らかな内分泌攪乱作用は認められなかった。

(3) 平成 14 年度優先物質

物質名	試験結果
4.ヘキサクロベンゼン	頻度は低いものの、精巣卵の出現が確認されたが、受精率に悪影響を与えるとは考えられず、明らかな内分泌攪乱作用は認められなかった。
12.ヘキサクロシクロヘキサン	頻度は低いものの、精巣卵の出現が確認されたが、受精率に悪影響を与えるとは考えられず、明らかな内分泌攪乱作用は認められなかった。
14.cis-ケルテン	明らかな内分泌攪乱作用は認められなかった。
16.trans-ケルテン	明らかな内分泌攪乱作用は認められなかった。
18.p,p'-D D T	明らかな内分泌攪乱作用は認められなかった。
18.o,p'-D D T	グライサイクル試験を実施する予定
19.p,p'-D D E	グライサイクル試験を実施する予定
19.p,p'-D D D	頻度は低いものの、精巣卵の出現が確認されたが、受精率に悪影響を与えるとは考えられず、明らかな内分泌攪乱作用は認められなかった。